

フィールド レポーターだより!!



シイノキの花

2014年度 第1回調査

- I. 初夏の「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」調査
 - II. 秋の「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」調査
- } 結果報告

「知らない方にはシイノキという木を知ってもらいたい」、「知っている方にもシイノキという木をもっと意識してもらいたい」ということが、今回のテーマをフィールドレポーター調査としてやらせていただいた理由です。普段はそれほど意識することはないかと思いますが、じつはシイノキは私たちの家の近くの神社やお寺、公園などに多く植栽されていたり、近所の裏山で観察することができたりする「身近な木」です。

今回の調査によって、滋賀県の各地域からたくさんのシイノキの情報を集めることができました。その報告の中でも、神社やお寺、公園といった環境に生育する多くのシイノキの情報をお送りいただいたことは、レポーターのみなさんが「身近なシイノキ」を見つけていただいたことを示していると思います。今回の調査をとおして、「身近なシイノキ」を意識するという、一つのドングリをみなさんの中にまくことができたと考えています。

じつは、シイノキは身近にあるというだけでなく、これからの滋賀の山の植生を考える上で欠くことのできない重要な樹木でもあります。滋賀の標高の低い山地の多くは、自然の遷移にしたがうと、やがてはシイノキを中心とした照葉樹の森になっていくと考えられているためです。京都市の周辺の山では、すでにシイノキの拡大が進んでおり、一部では景観の変化が問題にもなっています。今回の調査では、残念ながら山に生育するシイノキの報告は多くは集まりませんでした。しかし、山林内や遠景からの報告もあり、滋賀でもシイノキが身近な山の中で分布を拡大している可能性も示されています。

今回の調査をきっかけとして、これからも身近なシイノキを意識して、ぜひ観察を続けてほしいと思います。ちょうど、今年もシイノキの花が咲く季節がやってきました。暖温帯の照葉樹の森をいろどる、黄金色の初夏の使者を探して、今年も楽しんでみてください。

担当学芸員 林 竜馬

2014年度第1回調査は初めてシイノキをテーマに取り上げました。初夏に咲き誇るシイノキの花、秋にはシイノキのドングリを調査していただきました。

本フィールドレポーターだよりでは、最初にⅠ. 初夏の「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」調査結果を報告し、次に(13ページ以降)、Ⅱ. 秋の「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」調査結果を報告します。

Ⅰ. 初夏の「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」 調査結果報告

1. はじめに

初夏の頃、常緑樹の森や林の中に黄色のこんもりとした花を咲かせるシイノキに着目して調査して頂きました。調査期間は平成26年5月～6月末で、シイノキの花の咲き始めから終わる迄の短期間の調査でした。

調査には21名の皆さんから、64地点の調査票を頂きました。そして62本の樹木の情報と37本の花の写真、47本から採取された葉をお寄せいただきました。有難うございました。

調査地点は Fig-1に示す通り、52メッシュコード(世界基準)でした。

調査期間中の調査日別報告地点数は Fig-2に示しました。調査票記載の調査日は5月4日～6月30日ですが、花が観察できる5月上旬から5月末までの調査地点数の報告数が95%でした。

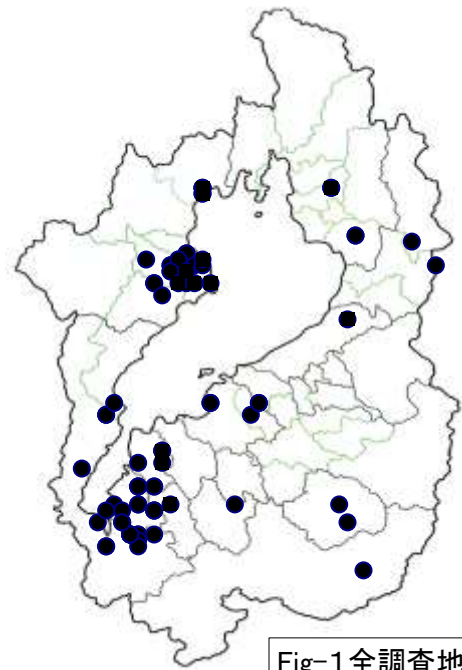


Fig-1 全調査地点

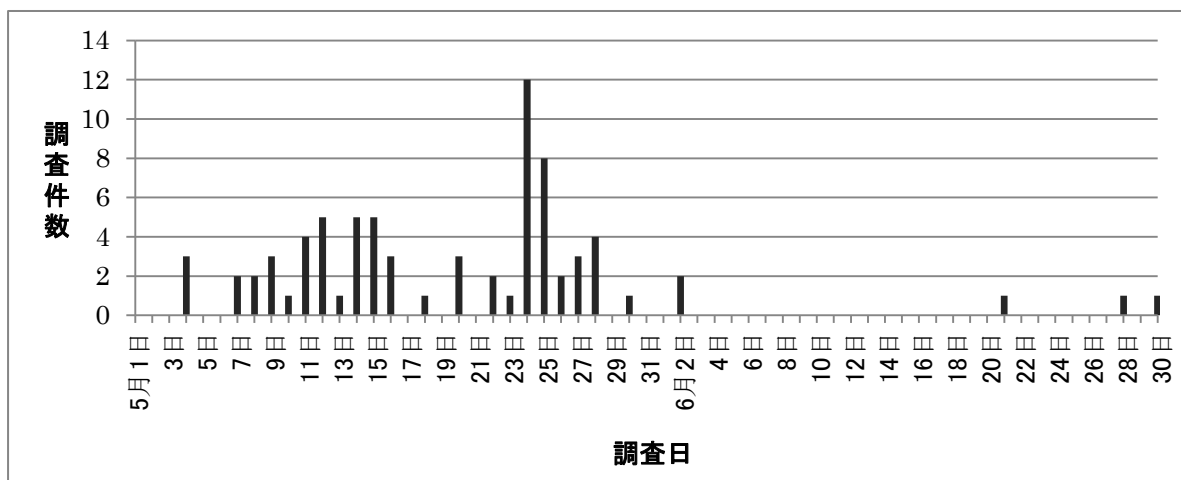


Fig-2 調査日別調査地点数

2、調査地点の環境

報告された調査地点の環境を5つに区分してみました。Fig-3の通り神社・寺の境内やその近くでの報告が66%で最も多く寄せられました。次に学校・公園、山林、道路沿い(平地林)、住宅地でした。この結果から滋賀県では神社や寺の境内に多くのシイノキが生育していることが分かります。

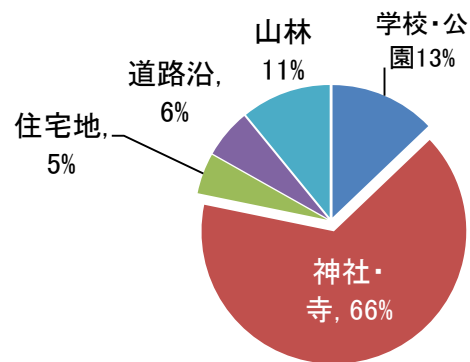


Fig-3 調査地点環境

3、シイノキの花の調査結果

シイノキの花が見つかったどうかの結果です。Fig-4には見つかった地点、Fig-5は見つからなかった地点を示します。見つかったと報告された中で、お寄せいただいた葉っぱと写真を学芸員が確認してシイノキではないと判断したデータは記載していません。

Fig-6は調査票にコメントとして記載された、遠くから観察した結果です。報告日は花が咲いていて良く目立った時期でした。正確な判定ではありませんが、花の咲いている地域の凡その様子が分かるので示しました。なお、シイノキの種類(スダジイ・ツブラジイ)の調査結果は秋のドングリ調査の結果の中で合わせて後述します。

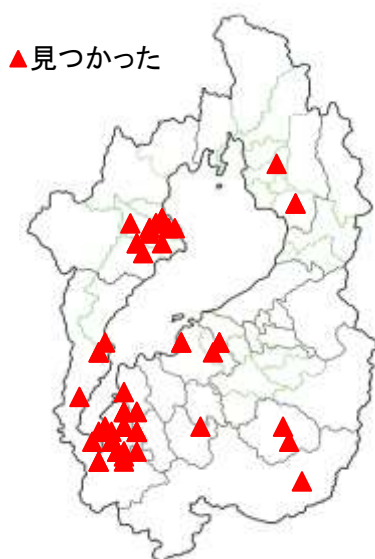


Fig-4 見つかった地点

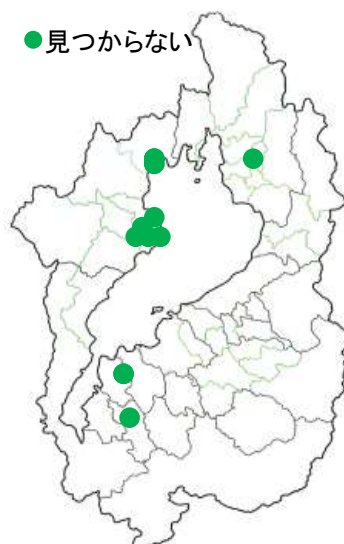


Fig-5 見つからなかった地点

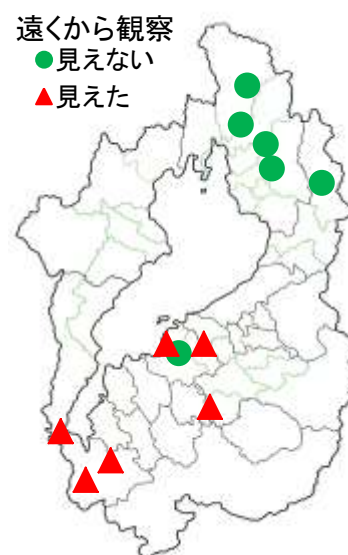


Fig-6 遠くから観察

4、花が見つかった樹木の大きさ

花が咲いている樹の樹高と幹回りの報告結果を示します。

Fig-7は樹高と幹回りの関係、Fig-8は幹回りの大きさとその報告件数です。

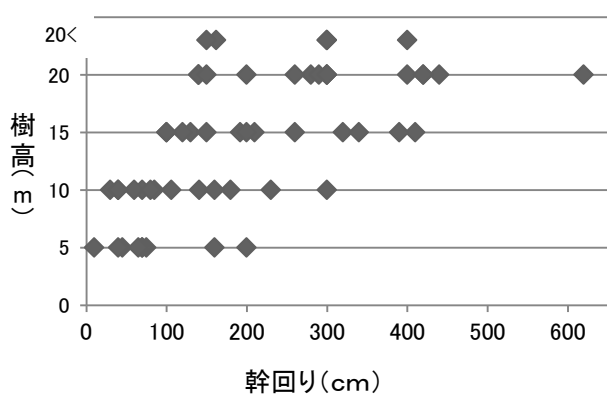


Fig-7 樹高と幹回り

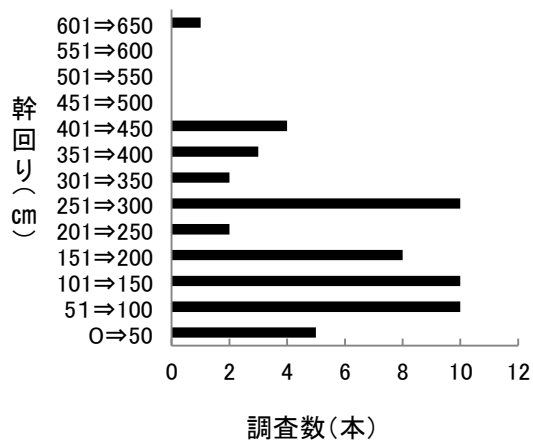


Fig-8 幹回りと報告件数

5、レポーターから送付されたシイノキの花の記録写真

送付して頂いた写真を調査日の早い順に選択して示します。



5月9日草津市西矢倉3丁目



5月11日大津市坂本4丁目



5月12日大津市瀬田月の輪町



5月12日栗東市総7丁目



5月12日大津市南大萱町



5月13日大津市石山寺2丁目



5月13日湖南市岩根



5月14日草津市矢橋町



5月14日長浜市湖北町丁野



5月20日大津市中野3丁目



5月22日大津市瀬田南大萱町



5月23日甲賀市土山町



5月26日守山市杉江町



5月27日近江八幡市安土町下豊浦



5月28日日野町大字鎌掛



6月1日草津市青地町



花について一人の方から質問がありました

質問 ; 栗の花のようににおうのでしょうか。私は栗の花のにおいは苦手です。

回答 ; シイノキもクリの花と同じように強いにおいを発します。好き嫌いはあるでしょうが、一度体感してみても面白いのではないのでしょうか。

6、シイノキにまつわることを教えてください。

(1) 実(ドングリ)を食べたことがありますか。

19名から回答をいただきました。

- ① 無いという回答が4名
- ② 有るという回答が15名

有るという回答で、食べ方及び食べた経験された時期は次の通りです。

食べ方は

いつ頃の経験ですか

食べ方	件数
生で	6
炒って	7
炊き込みごはん	1
どんぐりプリン	1

経験した時期	件数
子供、幼い頃、小学生、少年時代	9
約25年前、約20年前	2
大人になって (20年前、10年前、数年前)	4

(2) 木を利用した経験が有りますか。

19名から回答をいただきました。

- ① 無いという回答が18名
- ② 有るという回答が1名。

有るという回答で、利用の仕方と何時頃かについての記載は次の通りです。

	利用の仕方は？	何時頃
樹木	18才迄は田舎で育ち、昔はガスや灯油など無かったため炊事、風呂、暖をとる事全て薪からでした。クヌギやシイの木などから木炭を焼いていた。コタツも炭火だったし、陶器の火鉢や大きな鋳物の火鉢も大勢の来客がある時には必ず出番がありました。その鋳物の火鉢は周りが熱くなるので火傷に注意しながら暖まったものでした。掘りコタツの掃除は子供の仕事であった。姉や妹は余りしなくていつも私が大きな掘りこたつの中へ頭を突っ込んで掃除をしたものでした。炭火はほこりが出て一日一回の掃除は欠かせなかった。	昭和30年後半～40年頃

7、「シイノキの花を調べてみよう」調査票をまとめたの所感

今回の調査はシイノキの花が咲いている5月初めから調査をしていただきました。寄せられた写真を見てみますと、県内で花が確認できるのは5月初めから1ヶ月位ということが分かります。参加していただいた皆さんの調査報告日(Fig-2)がこの間に95%になっていますので、ほとんどの報告がシイノキの花を正確に観察できていたと思えました。そして、とても有難いことに、花の咲いている時期に、「見つからない」という報告も多く頂きました。今回の調査では報告数がまだ少なかったため明確には分かりませんでした。このような「花が見つからない」というデータが集まっていくことで、滋賀県内でのシイノキの分布や拡大状況が明らかになっていくものと思います。

調査地点の結果を見ますと(Fig-3)、神社・寺が66%と最も多く、学校・公園が13%で、山林は11%と多くありませんでした。この訳は次に示すレポーターの感想に代表されると思います。

- ◇ 高島市を調査されて;5月中旬、一目見るだけでシイノキの花盛りがあちこちで確認できました。しかし、実際に近づくと、雑木や下草等が繁茂し、荒れていて林の中に踏み込めなかったり、斜面が急で登るのが難しかったり、獣害対策の柵があつたりと、野山にあるシイノキの場合、樹のそばまで辿り着くのが意外と困難で、調査に不向きな場合が多いことから、残念ながら断念して、結局のところ無理なく容易に調査ができる社寺の境内にあるシイノキを調査することになりました。
- ◇ 近江八幡市を調査されて;安土山、今は閉鎖されていて登れない。
- ◇ 湖南市を調査されて;花でシイを探しました。意外にたくさんあるのに驚きました。でも、山中に有ってなかなか近付けないのが残念です。

このように、今回の調査では山地のシイノキの調査が難しかったため、特に神社やお寺での結果が多く報告されたものと思われます。

花の咲いている樹木の樹高と幹回り(Fig-7)に示しました。幹回り(Fig-8)は100cm以下が約3割、300cm以上の巨木(環境省の巨木の定義は3m以上)が約2割と幅広く調査されました。御神木との記載もあります。高木も多くあって花を身近で観察できない方も多かったようです。

シイノキの花が「見つかった」、「見つからない」の県内の分布状況は Fig-4、Fig-5、に示しました。近接したメッシュ地域で「見つかった」場所、「見つからない」場所が混在しています。調査地点環境の結果(Fig-3)から、神社・お寺の報告が多く、人が植栽したり、保護している場所がほとんどですので、神社・お寺にかかわった人の考え方や思いによる差が出たのかも知れません。

これら保護されているシイノキを起点にして山地の方に分布が広がるのか、また広がる様子が県の南部地域と北部地域で差がみられるのか等、今後も観察を続けていくことで何か知見が得られるのではないのでしょうか。

8、調査票に記入頂いた思い出、感想など順序不同で掲載させていただきました。

<p>☆</p>	<p>高島市の新旭町、安曇川町、武曾横山、拝戸の調査を終えての感想</p> <p>この調査にあたって、これまでほとんど意識していなかった新緑の山際ですが、5月中旬、一目見るだけでシイノキの花盛りがあちこちで確認できました。しかし、実際に近づくと、雑木や下草等が繁茂し、荒れていて林の中に踏み込めなかったり、斜面が急で登るのが難しかったり、獣害対策の柵があったりと、野山にあるシイノキの場合、樹のそばまで辿り着くのが意外と困難で、調査に不向きな場合が多いことから、残念ながら断念して、結局のところ無理なく容易に調査ができる社寺の境内にあるシイノキを調査することになりました。</p> <p>ついでには、高島市南部(新旭町から旧高島町にかけて)の饗庭野台地や泰山寺台地、三尾山(岳山)の裾野に点在する主要な神社を順番に回ってみたところ、何か所かは見つかると思っていましたが、実際にはそのほとんどでシイノキが確認できたのには、いささか驚きました。一方、山裾から2~3km 以上離れた平野部の神社では、そもそも境内に茂っている樹木数が山裾の神社に比べると極端に少ないことも理由の1つだと思われませんが、シイノキが何も見つからない神社がかなりありました。(ただし、今回調査報告したものは、社叢林の規模が比較的大きく、地域的に近接していない主要なもののみに限っています。)また、シイノキがある場合も、1本だけとか、「御神木」(一部は注連縄あり)的に大切に扱われている感じが感じられました。</p> <p>今回の調査では、同一調査地に数本あった場合も含めて、全体で何十本かのシイノキを確認したことになりました。しかし、シイの種類としては、昨年落ちた実やその残骸を手掛かりにしつつ、調査地に複数のシイノキがある場合、ツブラジイを意識的に探すようにしましたが、結果的にスダジイが圧倒的に多く、ツブラジイはなかなか見つかりませんでした。ツブラジイがあまり確認できなかった理由として考えられることは、神社という特定エリアにおける人為的な影響によるものか、気候や地勢等の自然的な要因によるものか、または、たまたまであったのか、よくわかりませんが、いずれにせよ、全県にわたる今回の調査結果を楽しみに待ちたいと思います。</p>
<p>☆</p>	<p>草津市矢橋町調査;今回調査に際し2012年11月に大津市坂本を観光中に出会ったスダジイの巨木を思い出しました。推定樹齢300年以上の威風堂々とした姿でした。参考までに当時の写真を添付します。</p>
<p>☆</p>	<p>草津市矢橋町調査;鞭崎神社のツブラジイにはアオサギなどのサギ類がたくさん営巣していた</p>
<p>☆</p>	<p>大津市平野二丁目調査;京都大学生態学研究センター前道路沿いに38本のシイノキが植栽されている</p>
<p>☆</p>	<p>大津市平野一丁目調査;神社の森に1本あるが付近の山には見当たらない</p>
<p>☆</p>	<p>大津市中野三丁目調査;参道沿いにも数本あるが未調査。荒戸神社の東側の森に群生している。</p>

☆	大津市瀬田南大萱町調査;この公園にはシイノキが数本植えられている。いずれも10m以下
☆	大津市桐生一丁目調査;神社境内および森に多くのシイノキがある。
☆	草津市青地町調査;神社境内および森にシイノキが点在する。調査地点番号10の木は弱っている感じである。
☆	大津市調査;その日大阪への高速道路から目に入る山々が黄土色のこんもりした塊様のものがもこもこして「何だろう?」と思っていたところでした。家の近くでは探すことができません。栗の花のようににおうのでしょうか。私は栗の花のにおいは苦手です。昭和59年生まれの子が小学校1年生の時、マテバシイの実をすり鉢ですり、片栗粉等混ぜてどんぐりだんごを作って食べたそうです。「生活科」導入の時(平成3年)でとても熱心な先生でした。マテバシイは今回対象外のようにですが、マテバシイの実は集め易かったと思います。生食はしなかった。
☆	大津市石山寺二丁目調査;見上げるばかりでしたが、1本の枝が下がっているので足元に注意してやっと手が伸びて葉付きの枝を(神様ありがとうと言って戴きました)採ることができました。一昨年の夏に妹夫婦と集まった時、子供の頃の話になりました。椎の実を拾って食べた話で二女夫婦は生で三女の夫は北九州出身で炒って食べたと言います。今のようにおやつがあまり無かった時代、生で食べたあのほんのり甘い味がなつかしいです。その秋10月末にも椎の実を探しに神社へ行きました。参道にも境内にもドングリの実ばかり、諦めきれずに今まで入ったことのない拝殿の奥の祠のある場所に上って行きました。なんと一面にあの黒くツヤツヤしたコジイがいっぱい落ちていて妹の分までと夢中で拾いました。そのコジイの木を今年第1回目の調査と知りびっくりです。樹は更に上がった場所にそびえていて幹回りは腕を回しても届かず枝葉も高く見上げるばかり。坂になっているので足元がふらつきますが、よ〜く見ると一枝だけが下りているのを見つけ、翌日夫に協力してもらいました。5/10(提出まで瓶で保存していました。5/16)
☆	長浜市湖北町調査;ドングリと言えばカシのキでシイノキは見かけない。大津へ転勤になり電車からの眺めは、南に行くと確かに黄色のコンモリが見られ、山笑うですね。小谷小学校のこの木はその昔から児童の格好の遊び場で樹木に空洞ができ、枯れ死しないようモルタル等の補強がされたことを以前聞いていたので訪問してみました。
☆	高島市マキノ町調査;私の住む集落「知内」は延喜式にもその名を知られた古い歴史の村ですがなぜか二社三寺の境内には椎の木はありませんでした。平地林の雑木林にもありませんので、椎の木は成人するまで見たことがありませんでした。私達の子供ができて子供の成長を守って下さる福井県の三方の観音さんへお参りした時沢山の椎の実が散らばっているのを見てこれが椎の実かと思ったのが最初です。
☆	甲賀市土山町調査;北九州にシイノ実学園(障害児)があると母に聞いた。「僕らはシ

	イノ実小さいシイノ実〜♪』という歌がある。
☆	湖南省岩根調査; ドングリがあるからシイだと気付きます。今回、花でシイを探しました。意外にたくさんあるのに驚きました。でも、山中に有ってなかなか近付けないのが残念です。
☆	大津市坂本四丁目調査; 小学生の頃初めて上級生に教えられて食べた、シイノキを訪れてみた。巨木は今も堂々とした風貌で葉を茂らせていた。最近ではシイの実を砕きクッキーなどを焼いている。
☆	近江八幡市安土町調査; 故郷(兵庫県)にシイノキがあったのかな? シイノ実は食べたことがなかったです。
☆	守山市笠原町調査; 集落では最も大きい屋敷で、家屋を囲む樹木は鬱蒼と茂った堤林になっている。ここは多様な林相だが、最近竹が繁茂してきた。ドングリの木はあるが、栗・シイの木は見当たらない。旧野洲川堤林が川の改修と共に無くなったので、烏・鷺など鳥類の最適な場所になっている。
☆	守山市笠原町調査; 集落の屋敷に大きなシイの木があった。遊び仲間と拾って食べようと思ったが、私はみつけれず、友が拾ったツブラジイを貰った。皮を剥くのにてこずり、黒い小さな実を齧った。栗の実を想像していたのに、意外に小さいので驚いたことを覚えている。この木のあった屋敷、いまは住宅地として売出されている。
☆	彦根市調査; 茨城県在住の時友人より実を頂き食した事を懐かしく思い出した。山林地の調査を怠った為に見つける事が出来なかったと感じています。造園や管理者にも尋ねましたが不明でした。
☆	米原市柏原調査; 私が小学生の頃ドングリを食べるとどもりになるという迷信が子供達の間でありました。
☆	守山市播磨田町調査; 2014. 1. 25守山市下之郷史跡公園でドングリの講演会に参加し感動しました。今年の秋には是非どんぐり粉を収穫し、どんぐりプリンを作ろうと今から楽しみにしています。※マテバシイが大きいので最高! ※スダジイは粒が小さいので粉が少量だから大変だとか...
☆	草津市調査; シイノキはなかなかないが、子供はドングリやマツボックリをロクハ公園などで集めて楽しんでました。
☆	5月18日 シイの木探索 行き: 湖岸道北上→世継より内陸→近江町→伊吹→浅井町→365号・8号北上→木ノ本→余呉→高時川遡上→上丹生→菅並 帰り: 田園地帯の集落を観察、高月町→湖北町→びわ町・川道→湖岸道・長浜市→南下→彦根市→中主町 結果、シイの木、湖北ではまったく見当たらない。長命寺の港の上辺りには今盛りに黄金色の花が見られた。八幡山の西・北・山麓には全く無し。安土城址南麓にそれらしい花があるようだが、遠いので心もとない。荒神山もなし。彦根の佐和山辺りにそれ

	<p>らしいのを望遠、違うかも。伊吹山塊まったくなし。湖北にはシイの木が植わってないのか？ それとも時期尚早？ 通過する集落内の樹林にもそれらしいものなし。湖岸の樹林帯は期待しないが、水気の多い土地には適さないか？ 小谷山・虎御前山も見当たらず。余呉湖を囲む山林にもなし。高時川の中流、両岸の山林は気配すらなし。とにかく湖東・湖北の山には黄金色が見られない。帰りに見た荒神山の北側山麓にそれらしいのがあったが、近江八幡市牧町の船岡山・北東山麓(老人ホームの東側)に黄金色を見たが、暮れているので定かでない。</p>
★	<p>5月12日野洲市三上山の登り口(正面)の上は花盛り。 5月14日大津市逢坂山トンネルの上の山は花盛りです。 5月16日大津市南郷の立木観音の周りの山が花盛りでした。</p>

Ⅱ. 秋の「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」調査報告

初夏のシイノキの花調査に引き続き、花を観察した樹木、花の時期を見逃した樹木等を対象に、秋にドングリが実って地上に落ちた頃、実を拾ったり、その写真を撮ったりして調査をお願いしました。調査期間は10月初旬～12月末で、19名の方から76件の調査結果を頂きました。

1、全調査地点

Fig-1に示す通り、75メッシュコード（世界基準）です。県内広い範囲から調査結果を頂きました。

2、調査地点の環境

Fig-2に示します。神社・寺58%、学校・公園25%、山林12%、道路沿い7%でした。

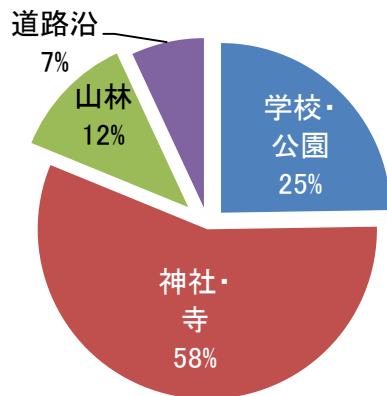


Fig-2 調査地点の環境

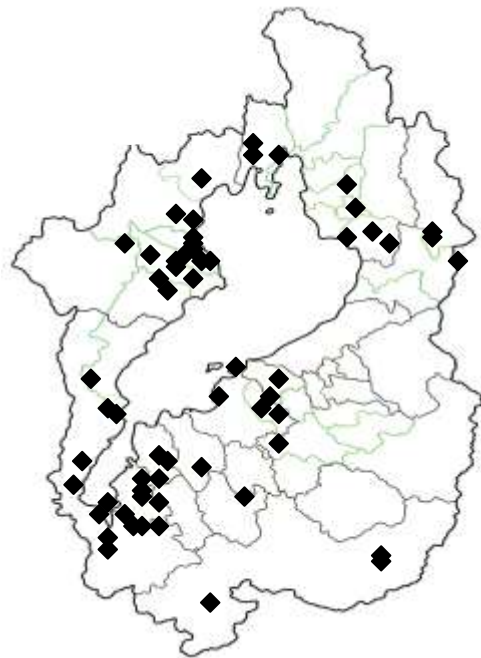


Fig-1 全調査地点

3、調査された木の樹高と幹回りの関係は Fig-3、幹回りは Fig-4の通りです。

幹回りの小さい若い木が多いですが、3m以上の巨木も多く調査されています。

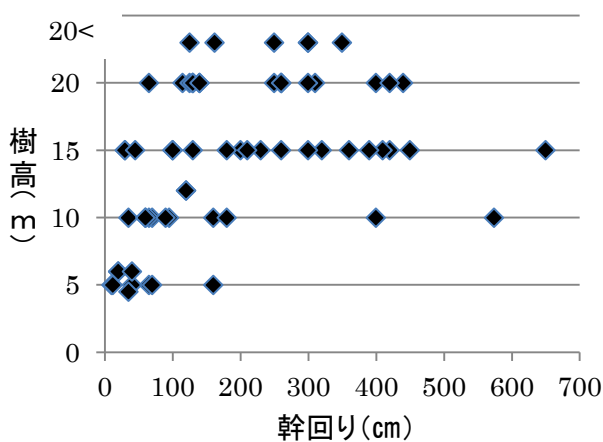


Fig-3 樹高と幹回り

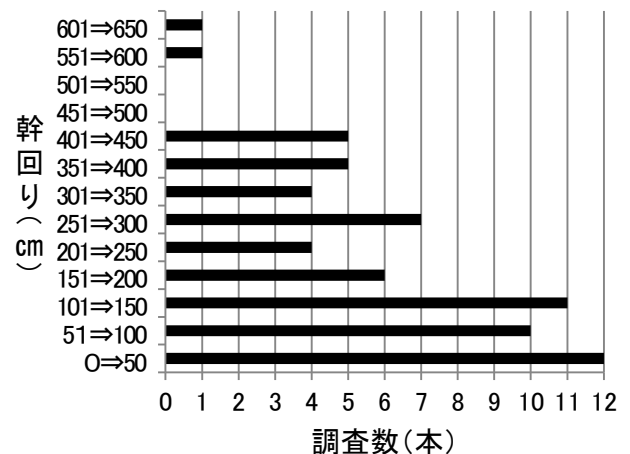


Fig-4 幹回りと報告件数

4、観察されたドングリの長さ

シイノキの種類をドングリで判断する
目安として、各ドングリの長さの基準を調査票に次のように示しました。

ツブラジイ:6~13mm

スタジイ :12~20mm

報告されたドングリ長さ分布をFig-5に示します。2種のドングリ長さに重なる10~15mm間に68%分布していることから、ドングリの大きさだけでは正確な種類の区別が難しいことが見てとれます。

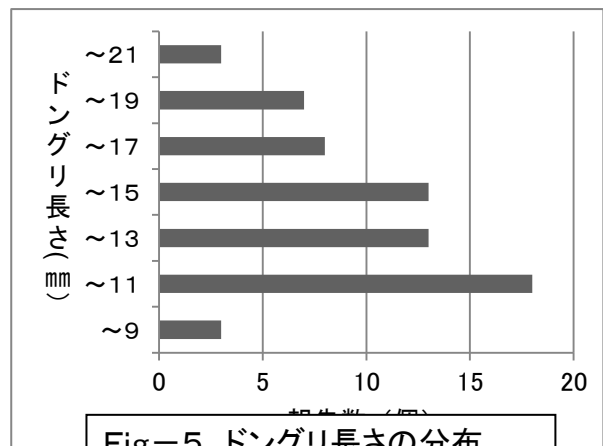


Fig-5 ドングリ長さの分布

5、ドングリの種類別分布(レポーター同定)

レポーターから報告されたドングリの種類別の分布は次の通りです。花の調査データも含まれています。Fig-6にはツブラジイ、Fig-7にはスタジイを示します。なお、不明と報告のあったデータは載せていません。

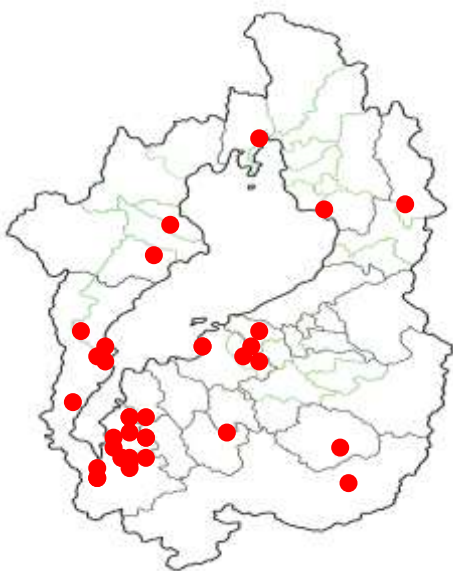


Fig-6 ツブラジイ

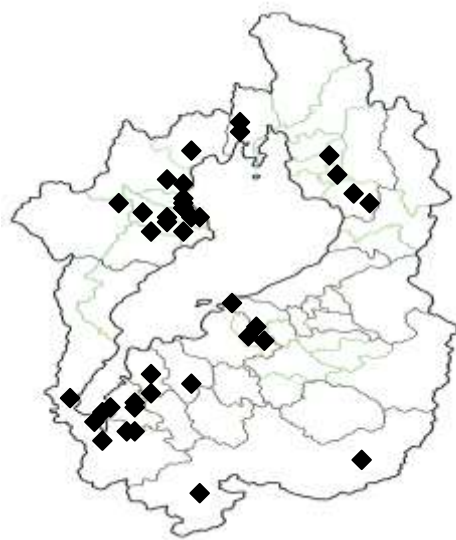
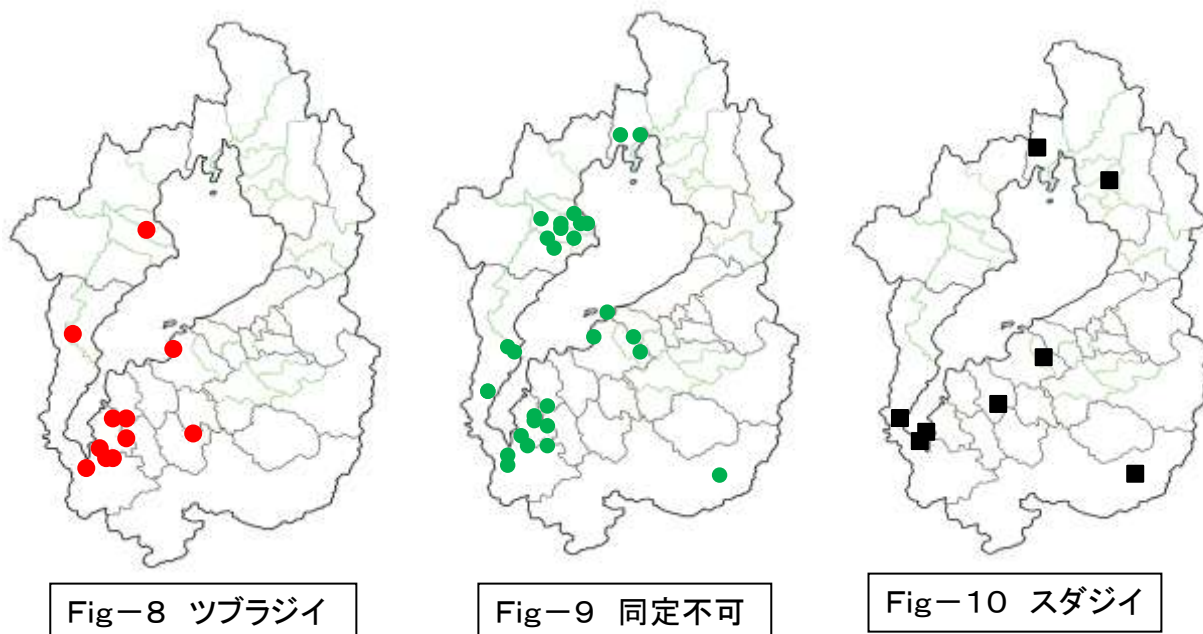


Fig-7 スタジイ

6、ドングリの種類別分布(学芸員同定)

Fig-8ツブラジイは23本の樹木で11メッシュ、Fig-9同定不可は45本の樹木で45メッシュ、Fig-10スダジイは12本の樹木で8メッシュのデータを示します。

この図はドングリを基にした同定結果ですが、正確なツブラジイとスダジイの2種の同定のためには葉の断面を顕微鏡で観察する必要があります。



7、レポーターからの質問項目を拾い出してみました

質問事項	回答
下部の木の枝(上部は見えない)を探したが、実の付いているのは無く、蕾すら見当たらない。隔年結実？	他のブナ科樹木と同様にシイノキもドングリの豊凶に年変動があります。年毎の豊凶を観察してみるのも面白いと思います。
双眼鏡で下から見上げても、実をつけているのが見えません。下の方の枝には実をつけないのでしょうか？教えてください。	春の調査でも分かるように、シイノキは日の当たる樹冠部に花をつけます。実がなかったのは花がなかったためです。今度は春にも同じような観察をしてみてください。

8、レポーターからシイノキのドングリ探しをしての感想の中で、動物との関連について記載している部分を拾い出してみました。

- ◇ 東近江市を調査されて;最近山にもドングリが少なく、熊も食べ物が無いので人里に沢山きます。生態系を元に戻さないといけないのです。
- ◇ 湖南市を調査されて;春の調査で報告した樹です。その時ドングリを見つけることができませんでしたが、今回もパラパラと見つかる程度で少なく、動物に食べられたのかなあと思います。

- ◇ 近江八幡市を調査されて;これまでシイの実を探すのに苦労させられたが、ここは探す手間いらず、手の届く範囲に実が敷き詰められていた。誰も(鳥獣も)今日までに採集しなかったのが不思議。信長様の御威光?
- ◇ 甲賀市を調査されて;お猿は一度おいしい里の畠の味をしたら、集団でやってくるでしょう。ドングリは見向きもせず、干し柿、黒豆(皮をむいてしっかり全部食べる)、大根、白菜等を食べるでしょう。そして、落ちていたドングリも最後にすっかり食べてしまいました。
- ◇ 長浜市を調査されて;正福庵(寺)の近くの方に聞いたところ、昔は拾って食べたものですが、今ではサルが全て食べてしまうそうです。写真のドングリも皮だけです。(裏、中身は空っぽ)

9、「シイノキのドングリを調べてみよう」調査票をまとめたの所感

調査に参加された19名の皆様の努力で76件の調査結果を頂きました。花の調査をした地域をさらに広げてドングリ調査をしていただいています。Fig-1に示すように県の北部、南部と広範囲の調査データが集まりました。

調査地点の環境(Fig-2)は神社・寺が58%、公園・学校25%で花の調査とほぼ同じ傾向になりました。調査樹木の幹回りと高さ(Fig-3、Fig-4)を見ると、幹回りの100cm以下の若い木が約3割で比較的多く、300cm以上の巨木は約2割ありました。15m以上の高木が多く樹木からドングリを見つけるのは難しいという感想を多く頂きました。それでも落ちていたドングリを探して長さを測定し、写真を撮って調査して頂きました。

ドングリの長さの報告結果はFig-5に示しました。長さは8mmから21mmまで分布しています。ドングリの種類を判別する目安として、ドングリ長さの基準を次の通り調査票に示しました。ツブラジイ:6~13mm、スダジイ :12~20mm です。報告されたドングリ長さを見ると、2種の長さに重なる10~15mm 間に68%分布しています。このことから示されるように、種類の区別は難しかったことと思われます。

ドングリの種類別分布は、レポーター報告結果を Fig-6にツブラジイ、Fig-7にスダジイを示しました。学芸員の同定結果を Fig-8にツブラジイ、Fig-9に同定不可、Fig-10にスダジイを示しました。これらを見ると、Fig-8のツブラジイは南部の方に多い傾向です。一方で、Fig-10のスダジイは南部でも、北部でも認められました。スダジイは神社・寺、公園・学校の地点に生育していた個体であり、人の手による植栽の影響が強くている結果となっていました。

10、調査票に記入頂いた思い出、感想など順序不同で掲載させていただきました。

★	近江八幡市安土山西石段;今は閉鎖されて登れない。
★	近江八幡市伊崎半島;お寺の庭にも同じものがあつた。
★	長浜市西浅井町;巨木や保存樹木のシイノキを求めて、長浜市の西浅井町へ行って

	みました。
★	長浜市西浅井町;落ち葉を掃いている近所の方が樹齡千年は言い過ぎではと笑っておられた。昔は拾い集めて食べたそうです。
★	長浜市西浅井町;正福庵(寺)の近くの方に聞いたところ、昔は拾って食べたものですが、今ではサルが全て食べてしまうそうです。写真のドングリも皮だけです。(裏、中身は空っぽ)
★	東近江市上羽田町;40年前に河川工事がされ大きなシイ大木がなくなりました果実が小さいので写しました、山のどこかにはあると思います。
★	近江八幡市上羽田町;かつては大きな「シイ」の木がありましたが30年前の台風で老木のため倒木してしまいました。森の中は「ツクバネガシ」の群落となっています。
★	甲賀市土山町;今の時期、当然シイの実が落ちてると期待して行ったのに、まったく見当たらない。下部の木の枝(上部は見えない)を探したが、実の付いているのは無く、蕾すら見当たらない。隔年結実?そんなことはないと思うが、今日見た限りまったくその兆候すらない。昨年の実だろう?沢山おちていたのを採集した。神社の境内に2本のシイの木、北側の木は548cmでやや細いが、両樹は風格があり、神木の貫録十分。
★	東近江市能登川町;最近山にもドングリが少なく、熊も食べ物がなくて人里に沢山きます。生態系を元に戻さないといけないのです。北極も氷がとけて、セイウチも出産出来なくて海岸に来るニュースも最近有りました。子供の遊びもかわって、ドングリ等も拾っていないようです。
★	甲賀市土山町;スダジイの幹の樹皮はひだがあって(デコボコ)、ツブラジイの樹皮はなめらかでした。前回シイノキの花は咲いている時期も分からず気をつけていましたが発見できずじまいでした。
★	甲賀市土山町;小さな実は舗装道路上に風で落ちていました。(小枝付き)
★	甲賀市土山町;神社にはよくシイノキが植えられていますが、昔はその実を飢饉の非常食と考えて、幕府の指導で植栽したのではないかと考えます。
★	大津市皇子が丘1丁目;バイパス建設で残された小さな林です。以前この場所を車で通りかかった時シイの実を拾っている人がおられたので、シイの木があることを知っていました。シイは5本あり、コンクリートに落ちた実はきれいで拾いやすいために、シイ拾いに絶好の場所です。
★	大津市真野4丁目;根元近くで幹が分かれていますので、幹回りは根元(2本一緒)で測りました。樹皮には深い溝ができていて、樹齡はかなり長いようです。神社の社内に、シイは10数本あると思いますが、どれも大木で葉や実を見ることはできず、地面に落ちているドングリで判断すると、ツブラジイばかりだと思います。以前の調査で神社の人の聞くと、「植えた記録はない」ということでした。シイの実が落ちる音がパラパラと響き、社内に心地よくひろがります。

★	大津市清風町;この地点にシイノキは5本あり全部ツブラジイでした。傍にはクリやコナラなどもあります。山を崩して造ったニュータウンの道路際に生えていますが、この一角だけが元の姿(里山)を残しており、植栽ではありません。また、ツブラジイですが、樹皮には浅い割れ目ができていました(写真)。春には近辺の山のあちこちにカリフラワー状の花が見られましたので、シイはこの辺りに普通に生えていることがわかりました。
★	大津市栗原;葉の裏が渋い金色をしているのでシイに間違いのないと思いますが、双眼鏡で下から見上げて、実をつけているのが見えません。下の方の枝には実をつけないのでしょうか?教えて下さい。このシイの実の高さも直径も10mm くらいの丸々とした球状(写真)で、ドングリ眼の語源がわかるような気がしました。
★	湖南省岩根;春の調査で報告した樹です。その時ドングリを見つけることができませんでした。今回もパラパラと見つかる程度で少なく、動物に食べられたのかなあとと思います。私は小さい頃シイを食べたことはありませんが、子供のおやつにはいいでしょうね。
★	湖南省岩根;この十二坊のあちこちにシイが見られるのですが、調査番号5地点から東に100mほど行ったところにある樹を調べました。この樹もコジイのようです。
★	近江八幡市安土町常楽寺;シイの大木が20本近くあるように思います。夕方まで日が陰ってきたので、5本だけ調査しました。5本のうち、この樹を含む4本はスタジイでした。けれども小型で球形のドングリを見つけ、いろいろ考えた結果、ツブラジイではないかと思いましたので、それを「調査地点8」に記録しました。
★	近江八幡市安土町常楽寺;写真のドングリは皆、地面に落ちていたものです。近くのスダジイの実が混じっている可能性がありましたので、樹の根元で、かつスタジイとは反対方向の箇所の実を拾いました。実はほぼ球状のもの(高さ9mm)から、やや細長いもの(同10~15mm)まで、サイズや形態にばらつきがあります。葉はどちらかというスタジイのサイズ、樹皮は浅い縦列があります。球状の実はスタジイの未成熟と考えられなくもありませんが、殻斗が割れるので、成熟したツブラジイと判断しました。けれどもこの樹の実が両種の間隔的な形で、しかも変異が大きいので、雑種と思うのですが...。葉を同封しました。調べていただければ幸いです。
★	高島市朽木荒川;今回は初夏の調査で十分回れなかった朽木やマキノの社寺を新たに調査しましたが、花でシイノキを探すのと違い、落ちていたドングリで探しあてるのは、かなり大変でした。調査の結果、シイノキは地域的に朽木では本調査票の一か所(最も安曇川の平野に近い)を除いて針畑地域まで足をのばしましたが、いずれも見つかりませんでした。結局のところ、シイが見られたのは、湖畔でもなく山の中でもなく饗庭野、泰山寺野台地や三尾(高島町)の山脈にある社寺中心に数多くみられました。そういえば前回の調査でも、これらの山裾ではいたるところで、シイノキが花ざかりで、境内にシイノキがある社寺が多いのも、当然の話かもしれません。

★	米原市柏原;写真 A-1、A-2、6月時のポイントと同じですが木は別の物だと思いません。
★	米原市春照;写真 B-1、B-2、6月の前回とポイントと同じ所ですが20~30本あるため同じ木ではないと思えます。
★	大津市黒津4丁目;右の写真は調査した樹木の幹です。同定の確認をお願いします。林の外縁部に20cmぐらいの同様の樹木が5、6本ある、他は大半がヒノキ、スギ。
★	大津市平津;右上の写真は調査した樹木の下部分は、気根ですか?同定をお願いします。林の外縁部に20cmぐらいの同様の樹木が5、6本ある、他は、大半がヒノキ、スギ
★	大津市南大萱町;右の写真2枚は、調査した樹木の全体です。同定の確認をお願いします。林の外縁部に20cmぐらいの同様の樹木5、6本ある、他は、大半がヒノキ、スギ。
★	近江八幡市長命寺;春に見たとき去年の実らしいものを採取した。今年の実を採取しよう秋に出掛けたが、早すぎたのか見つからなかった。12月下旬ならと22日に再び行った。数個の実を採取したが、果たして今年の実かどうか?樹の下に行くのは藪の中に入らねばならず× その下は人家の裏になるので行き難い。枯葉が積もっているその下に実がはいっているかも。
★	近江八幡市下豊浦;安土城の總見寺側登り口、石段を5~6段上がった左側。最初の平らな所(山の一番下の平面でもある)苔の上にシイの実が集まるように信長は考えた?春に来たとき数個の実を採集した所。(会勝寺より1段上の平面)腰を下ろした所から動かず、労せず100個~200個の実が採集できた。斜面に落ちた実は水に流されたか水脈沿いにかたまってもいた。これまでシイの実を探すのに苦労させられたが、ここは探す手間いらず、手の届く範囲に実が敷き詰められていた。誰も(鳥獣も)今日までに採集しなかったのが不思議。信長様の御威光?
★	草津市矢橋町;2014年5月14日調査でドングリの種類が不明でしたので再調査しました。
★	大津市桐生1丁目;2014年5月27日調査でドングリの種類が不明でしたので再調査しました。
★	草津市青地町;2014年5月28日の調査でドングリの種類が不明でしたので再調査しました。

11、謝辞

琵琶湖博物館の林学芸員には、調査の準備からまとめに至るまでの期間を通して助言と助力をいただきました。深くお礼申し上げます。

以上、担当;フィールドレポータースタッフ 花島昭紘。

【添付資料－1；調査案内】

琵琶湖博物館フィールドレポーター 2014年度第1回調査

「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」調査案内

シイノキは昔から身近な木で、実(ドングリ)を食用にするほか、炭焼、きのこ(シイタケ等)のほだ木などに利用されているようです。また、ご神木になっているのも多いと思います。

初夏の頃(5月～6月)、電車に乗って窓から山を眺めていると、青々とした常緑樹の森や林に青葉の新芽と思われる黄色のコンモリとした花が目立ちますが、それが黄色の花をつけたシイノキです。その花が一昔前に比べて増えているのではないとも言われています。皆さんの身近ではいかがでしょうか。

今回はこのシイノキの花に注目して 初夏の短い間に黄色の花をつけているシイノキを見つけていただき、その花がシイノキかどうか、できれば写真を撮って、調べてみましょう。更に詳しく知りたい方は、スタジイ(イタジイ)なのかツブラジイ(コジイ)なのか調べてみましょう。ただし、スタジイとツブラジイの正確な同定は葉の断面を顕微鏡で観察しないとわからないとされていますので、できれば葉っぱも合わせて送って下さい。博物館で正確な木の種類を調べます。

また、身近で、実(ドングリ)をどのような食べ方をされていたか、どのように利用されてきたか、シイノキにまつわる思い出・経験も教えて下さい。シイノキが見つからない場合もお願いします。そして、秋にもう一度、同じ木の実(ドングリ)も調べて頂こうと思っています。再度案内しますので調査結果を報告ください。

調査方法

- 1、黄色の花をつけたシイノキを見つけて、観察してみましょう。
できればシイノキの花の写真を撮って調査票と一緒に郵送か電子メールで送って下さい。
- 2、樹皮や葉っぱを観察して、シイノキの種類{スタジイ(イタジイ)、ツブラジイ(コジイ)}を考えてみましょう。そしてその樹高、幹回り(地上から1m位)を目測してみましょう。
- 3、その木の葉っぱを5枚、添付した用紙で袋を作りそれに入れて、必要事項を書いて郵送して下さい。送って頂いた葉っぱを使って正確な木の種類を調べます。
- 4、近くに数本有る場合は代表して2本を選んで木毎に調べてみて下さい。
- 5、調査票は調査地点一か所に1枚、調査地点番号・内容を記載して、報告をお願いします。

調査期間

2014年5月～6月 (花が目立って見えるのは5月上旬頃と思われます。)

送付方法

- 1、郵送の場合は同封した封筒をご利用下さい。
- 2、電子メール送付場合は宛先が freporter@lbm.go.jp メール容量は3メガ以内をお願いします。調査票の Word 版は博物館ホームページ⇒活動紹介⇒交流・サービス活動⇒フィールドレポーター⇒アンケート型調査⇒2014年度第1回調査「身近なシイノキとその花を調べよう」の中にありますのでダウンロードして下さい。なお、こちらで受信しましたら返信しますのでご確認願います。この場合も葉っぱは袋に入れて同封した封筒で郵送して下さい。

無理のないところで気楽に取り組んで頂き、多くの皆さんの調査結果をお待ちしております。

身近なシイノキとその花を調べてみよう 参考資料

1 花の咲いたシイノキの樹冠をさがそう

5月～6月頃になるとシイノキは黄色い花をつけて、その樹冠は黄金色になります。黄金色のこんもりとした樹冠は、カリフラワーのように見えます。



シイノキの花
(樹に咲く花より)



開花期のシイノキの樹冠
(日本の野生植物より)



大津市でみられるのシイノキ
(2012/5/24 林撮影)

2 スダジイとツブラジイを見分けてみよう

日本のシイノキの仲間には、スダジイとツブラジイ（コジイ）という2種類があります。2種の違いは、葉、堅果（どんぐり）、樹皮でみわけることができますとされています。

葉

スダジイ ツブラジイ



5-15cm

5-10cm

大型で厚い やや小型

(葉の裏には毛が密生し黄色く見える)

堅果（どんぐり）

スダジイ ツブラジイ



12-20mm

6-13mm

大型で
長楕円形

小型で
球形

樹皮

スダジイ ツブラジイ



深く割ける

平滑

(写真は「どんぐりの図鑑」より)

ただし、中間的な形質をもつものも多く、雑種も存在することから、両種の識別が困難な場合もあります。正確な同定のためには、葉の断面を顕微鏡で観察する必要があるとされています。

【添付資料-3;調査票】

琵琶湖博物館フィールドレポーター2014 年度第 1 回調査

「身近なシイノキとその花をしらべてみよう」調査票 【調査地点番号_____】

1. 調査者氏名 _____ 2. 調査日時 _____ 年 月 日

3. 調査地点 _____ 市・郡 _____ 町・丁目 _____

(1) その場所の近くの目印 (例 ○神社の西100m、○橋の東100m、○山の登山口から30m、等) _____

(2) 緯度、経度、メッシュコード(いずれも判る方だけで結構です。)

緯度[_____ 度 _____ 分 _____ 秒] 経度[_____ 度 _____ 分 _____ 秒]

メッシュコード

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

4、シイノキはみつかりましたか(○で囲む)

(1) いいえ (5番の設問へお願いします。)

(2) はい (以下全部の設問へお願いします。)

みつけたシイノキについて、下の表に記入願います。(○で囲む、数字を記入)

調査樹 記号	葉や樹皮を観察 して、種類は?	樹高(m)	幹回(cm) (地上1m)	花の写真 添付	葉添付 5枚
A	スタジイ・ ツブラジイ・不明	5・10・15 20・それ以上		有・無	有・無
B	スタジイ・ ツブラジイ・不明	5・10・15 20・それ以上		有・無	有・無

5、シイノキにまつわることを教えてください。

(1) 実(ドングリ)を食べたことが有りますか。

① 無い

② 有る; 何時頃ですか(_____)

; 食べ方は(a 生で b 炒って c その他の方法; _____)

(2) 木を利用した経験が有りますか。

① 無い

② 有る (その利用の仕方と何時頃かについて記入して下さい。)

	利用の仕方は?	何時頃ですか?
樹木		
その他		

(3) シイノキについて、思い出など何でも記述欄

【添付資料－4；調査案内】

琵琶湖博物館フィールドレポーター 2014 年度第 1 回調査－Ⅱ

「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」調査案内

シイノキの花に注目して初夏の短い間に黄金色のカリフラワー状の花を咲かせているシイノキを見つけていただきましたが、花の期間が短くて見過したり、見つけても山林の中に入れず調査ができなかったり、高木なので花や葉を十分観察できないなど大変苦労おかけしました。それでも、18名の方が62地点の調査票を送っていただきました。有難うございました。

今回、秋のシイノキのドングリについても調べて頂こうと思い調査の案内をさせていただきます。シイノキの種類を同定するのは難しいとされていますが、ドングリを観察してみると、大きくて卵状長楕円形なのがスダジイ、小さくて球形に近いものがツブラジイとして同定することも可能といわれています。見つけたドングリを観察して、できればドングリの写真を撮って、ドングリの外観や大きさからシイノキおよびその種類を推定してみてください。その結果を調査票に記入して、写真と一緒に送って下さい。ただし、ドングリは送付しないようにお願いします。無理のないところで、家の近くや野山の散策のついでに見つけて頂き、多くの皆様の調査結果をお待ちしております。

調査方法

- 1、ドングリを観察して、ドングリの写真を撮って、図鑑（初夏調査で送付しました参考資料はフィールドレポーターホームページからダウンロードできます。）と比較して、シイノキかどうかを調べてみましょう。近くにシイノキが数本有る場合は1本を代表にドングリを選んで調べてみて下さい。
- 2、できましたら、ドングリの大きさを測ってスダジイかツブラジイかも推定してみましょう。ドングリの大きさの測り方は調査票に記載しました。
- 3、調査票は、調査地点1ヶ所に1枚、調査地点番号・内容を記載して、提出お願いします。

調査期間

2014年10月頃～12月末

送付方法

- 1、郵送の場合は同封した封筒をご利用下さい。
- 2、FAX の場合は 博物館代表 077-568-4850、フィールドレポーター宛
- 3、電子メール送付場合は宛先が freporter@lbm.go.jp メール容量は3メガ以内でお願いします。調査票の Word 版は博物館ホームページ⇒活動紹介⇒交流・サービス活動⇒フィールドレポーター⇒アンケート型調査⇒2014年度第1回調査「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」の中にありますのでダウンロードして下さい。なお、こちらで受信しましたら返信しますのでご確認願います。

【添付資料-5;調査票】

琵琶湖博物館フィールドレポーター 2014 年度第 1 回調査 - II

「身近なシイノキのドングリをしらべてみよう」調査票

【調査地点番号 _____】

1、調査者氏名 _____ 2、調査日時 _____ 年 _____ 月 _____ 日

3、調査地点 _____ 市・郡 _____ 町・丁目 _____

(1) その地点近くの目印

(例 □神社の西100m、□橋の東100m、□山の登山口から30m等)

(2) 調査地点の環境(○で囲む)

①山林 ②神社・お寺 ③公園・学校 ④道路沿い ⑤他()

(3) 緯度、経度、メッシュコード(いずれも判る方だけで結構です。)

緯度[_____ 度 _____ 分 _____ 秒] 経度[_____ 度 _____ 分 _____ 秒]

メッシュコード

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

4、みつけたドングリとシイノキの種類について。(○で囲む、数字を記入)

(1) ドングリの写真; ① 有 ② 無

(2) ドングリの大きさ; 長さ (_____ mm)



(3) ドングリの種類 ○で囲む

① スダジイ

② ツブラジイ

③ シイノキ種類は不明

(4) 樹高(m) ○で囲む

5 ・ 10 ・ 15

20 ・ それ以上

(5) 幹周り(地上1m位の位置)

(_____ cm)

スダジイ ツブラジイ



12-20mm

大型で
長楕円形



6-13mm

小型で
球形

5、シイノキやシイノキ調査に関すること、そして他なんでも自由記述欄です。(裏面へもどうぞ記入してください。)